

## 米の消費量アップ大作戦！タブレットPCでコマーシャルづくり

ーロイロノートを活用してー

金沢市立小坂小学校 教諭 山口 眞希

muromoto@yu.incl.ne.jp

キーワード：協働学習、コマーシャルづくり、タブレットPC、iPad

### 1. はじめに

この実践はタブレット PC (iPad) とスライドショー作成アプリケーションであるロイロノート (株式会社 LoiLo) を活用した実践である。

子どもたちは5年社会科「米づくりのさかんな庄内平野」の学習で、米づくりに関わる人々の努力や工夫について学んできた。しかしそれらの努力や工夫とは裏腹に、米の生産量・消費量は年々減少していることに気づく。日本の農業に危機感を持った子どもたちは「自分たちに何かできることはないだろうか?」と考えた結果、農林水産省が制作した消費拡大コマーシャル (以下 CM) にヒントを得て、「自分たちでも CM をつくって全校に呼びかけよう」ということになった。そこで「米の消費量アップ大作戦!」と題して CM づくりを行った。CM といっても動画を撮影するのではなく、撮影した写真をスライドショーでつないだものに音声や文字を入れていくことにした。

この学習は協働学習の形式をとった。グループに1台タブレット PC を配布して制作活動を行うことで子どもたちにどんな力がついたのか、またタブレット PC の特性をどう生かしたのか、本実践で紹介する。

### 2. ねらい

#### (1) 教科のねらい

消費量拡大を促すという目的を達成するために、すでに子どもたちが調べた「消費量が減っている原因」や「解決に向けた農業従事者の取り組み」をもとに自分たちの提案を考え、CM という形で表現することになる。この学習における社会科のねらいは「米づくりに関する既習や見つけた資料を関連づけて、農業を元気にする提案を考え表現すること」である。

#### (2) 協働学習のねらい

この学習では班で1つの作品を作るという協働学習を取り入れた。本校にはノート PC が40台あるので、1人に1台与えて個人で制作することもできた。しかし、この学習ではあえて4人グループに1台 iPad を配布して作業をした。互いの意見を伝え合い、考えを統合したり発展させたりする言語活動を通して、思考力や表現力が育つと考えたからだ。

また、協働学習の過程において「考えの根拠を明確に伝える」「互いの考えの共通点や相違点を吟味する」「互いの良さを受け入れて新しい価値を創造する」「合意形成をはかる」という思考活動が繰り返されることで、関わり合って学ぶ力が身に付くことを期待した。

### 3. 実践内容

#### 3. 1 学習の流れ

時	学習内容
①	CM のコンセプト決定
②	CM を視聴し、CM に必要な要素を洗い出す
③	ストーリー・絵コンテ作成

④	個人でナレーション原稿作成
⑤	個人原稿を持ち寄り班で1つの原稿作成
⑥	タブレット PC で撮影・画像編集
⑦	タブレット PC でアフレコ録音・BGM 挿入
⑧	相互鑑賞会 (相互評価・自己評価)

#### 3. 2 CM コンセプトの決定

学習の始めに、各班に CM のコンセプト (伝えたいテーマ) を設定させた。なぜならストーリーやナレーションを考える時や何かの決定に迷った時、「コンセプトに合うかどうか」を判断基準にしてほしいと考えたからだ。

米の消費量が減少したのは、食の洋風化や手間がかかるなどの原因があることを調べ学習で見つけている。既習を生かし“それらの問題が解消できれば、お米を食べてもらえる”という仮説をもとにコンセプトを考えるようにした。各班からは「感謝をこめていただきます」「手間なしごはん」「お米は体と頭に良い!」などのコンセプトが出てきた。各班のコンセプトは紙に書いて掲示し、常に意識させるようにした。

#### 3. 3 ナレーション原稿の作成

おおまかなストーリーを決めた後、ナレーション原稿の作成を行った。1枚のスライドの表示時間は5～6秒程度。おさまるように原稿を書く。

この場面ではいきなりグループで原稿を考えるのではなく、まず個人で一度原稿を書き、それを持ち寄って班で一つの原稿を作るという方法をとった。

この意図は2つある。1つは個の思考力をつけると同時に、一人一人がその原稿へのこだわりを持って欲しかったからだ。自分の原稿に思い入れがあるからこそ、班で1つにまとめる時に、真剣な議論が生まれるのではないかと考えた。もう1つの意図は、そのような真剣な議論をすることで、合意形成をはかりながら価値あるものを創造する経験を積ませたいと思ったからだ。



写真1 班で原稿を練り合う

この場面では予想通り意見がわれたり自分の考えをゆずれなかったりと、協働学習の難しさに直面してい

た。しかし「よいCMをつくりたい」という思いから、建設的妥協点を見出すために粘り強くかかわり合いながら学習していた。(写真1)

### 3. 4 ロイロノートで編集作業

原稿が出来上がったら、画像や素材を集める。給食に出てくる白米を撮影したり(写真2)、実際にお米を使った簡単料理を作って撮影したり(写真3)、どの班もストーリーに合うように工夫していた。



写真2 給食の白米を撮影



写真3 実際に調理して撮影

次に撮影した写真をつなげ、画像編集と録音作業に入る。コマース制作に利用したロイロノートは、写真の撮影から画像の並び替え、手書きでのテロップ入力、BGMの挿入、録音作業まで、このアプリ1つで完結できる。授業者がほとんど説明をしなくても、ためらいなく操作していた。もしこれがPCでの作業だったら、マイクやカメラをつなげる手間がかかる。

操作性が良いため、協働学習時の子どもたちの発話を整理すると操作に関する発話はほとんど見られず、それよりも画像とコンセプトの整合性を問う発話や、伝わるかどうかを吟味する発話が多く見られた。

またタブレットPCの可搬性も多いに役立った。例えばナレーションを入れる時、教室から飛び出して静かな場所を見つけて録音できる。その場で聞き直して感想を述べ合い確認し、何度でもやり直しができる。これもPCでは容易にできないことだ。

このようにタブレットPCの扱いやすさとアプリの容易な操作性のおかげで、内容吟味に時間を費やすことができた。

こうして完成した作品はお昼の校内放送の“CM”として実際に流してもらった。全校からの反響も大きく、子どもたちも達成感を得ていた。



写真4 静かな場所へ移動して録音

## 4. 実践の成果

CMづくり終了後に質問紙調査を行ったところ、次のような結果が出た(抜粋)。

項目	とても	まあまあ	あまり	全然
コンセプトを意識してストーリーをつくれたか	24	7	0	0
米の消費量アップにつながるCMにできたか	25	5	0	0
積極的に意見を出し合い、班でよりよい作品にできたか	24	6	0	0

班で話し合って進める時に大切なことは何か?という質問に対しては、「個人が意見をしっかり持つ」「自分の意見を積極的に伝える」「相手の意見を受け入れてから考えを提案する」という解答が多く見られた。

学習のふり返りにも「みんなで意見を出し合ってまとめる時にもめたけど、意見の良いところを見つけてその意見をつなげると、もっとよい原稿になると気づいた」「積極的に意見を出し合い、それを練って最高のものをつくるのがとてもいいことだと思った」という協働の良さを表す記述が見られた。

これらの結果から、子どもたちが関わりを深めながら学習できたことがわかる。協働学習の形式をとったことで、一つのゴールに向かってとことん話し合い、自分たちのベストを見つけ出す必要性が生まれた。それが協働的に学ぶ力の向上につながったと感じる。

“30秒でいかに自分たちの想いを相手に伝えるか”子ども達にとって難しい課題であるからこそ、みんなで知恵を出し合う協働学習という形態が生きていた。

また、コンセプトを意識して活動したことで、ただ面白いCMではなく「米の消費を促す」ための提案性のあるCMを考えることができた。コンセプトの設定は「農業を元気にする提案を考える」という社会科のねらいを達成するために有効であったと言える。

## 5. 今後に向けて

タブレットPCを使うことで協働学習が活性化する。しかし協働学習全般に言えることだが、各グループ内でどんな思考活動が行われているのか、1時間の中で全てのグループを見取ることは難しい。授業後のふり返りを読んでから教師の出場を逃していたと感じることも多い。協働学習が有益なものとなるように、その時間の評価のものさしを授業者がしっかり持つておく、現状を把握しどのグループにどんな声かけをするか考えるなど、児童を見取るための手だてを考えることが大切だ。